

令和8年度第1回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和8年6月25日（水）13：00～14：02

場 所：千葉経済大学短期大学部1階 会議室

出席者：

1	佐久間 勝彦	理事長・大学学長・短期大学部学長・高校校長
2	佐久間 美羊	副理事長・短大副学長・教授
3	吉田 悦教	常任理事・特任教授
4	山浦 裕幸	大学副学長・教授・理事
5	栗沢 尚志	教授・評議員
6	横田 秀人	高校教頭・評議員
7	藤生 裕	大学教授・経済学部長・経済学科長・評議員
8	横山 洋子	短大こども学科長・教授・評議員
9	原田 浩二	高校副校長・評議員
10	秋元 浩	千葉経済大学附属高等学校同窓会会長・評議員
11	長谷川 七三一	高校同窓会顧問・評議員
12	中村 美由紀	千葉経済大学附属高等学校同窓会会長・評議員
13	幅 淳徳	千葉経済大学父母の会会長・評議員
14	河道 健太	千葉経済大学短期大学部後援会会長・評議員
15	佐久間 道子	評議員
16	積田 悟	前高校副校長・評議員
17	畠山 一雄	(学)畠山学園理事長・評議員
18	藤代 謙二	(株)ちばぎん総合研究所顧問・評議員
19	村松 重彦	(学)聖メリー学園・小ばと幼稚園理事長、園長・評議員
20	青柳 俊一	(株)千葉興業銀行会長・学園監事
21	植松 省自	税理士法人京葉会計事務所代表社員・学園監事

1. 開会のあいさつ

2. 理事長あいさつ

議題

【1】令和7年度事業報告について

議長の指名により、佐久間 勝彦 理事長及び、浅井 優規 法人事務局会計課長から、別添1「学校法人千葉経済学園令和7年度事業報告書」に基づき、法人の概要、事業の概要、財務の概要について説明がなされた。

事業の概要

建学の精神「片手に論語片手に算盤」及び校是・校訓に基づき、教育の質の確保・向上を図り、良識と創意に満ちた人材の育成を使命として、学園経営に当たった。

学生・生徒数の確保と徹底したコスト抑制によって財務の健全化を図り、教育環境の整備充実に努めた。

令和7年度に実施した事業の主な内容は次のとおりである。

〔千葉経済学園〕

（1）建学の精神の啓蒙

建学の精神「片手に論語 片手に算盤」について、「今月の論語」の教室掲示や総合図書館に「千葉経済学園と渋沢栄一」コーナーを設置した。また、総合図書館講演会として、渋沢資料館館長桑原功一氏を招き『渋沢栄一の事業のススメ方～人を思いやり、人に学び、人をつなぎ～』を開催する等、多様な取り組みを通じて周知徹底を図った。

（2）学園の将来構想の検討

学園を取り巻く外部環境の変化に対応すべく、毎月一度の学内役員定期会合を開催し、学園内の検討事項について意見交換、情報交換を行った。

（3）学園100周年記念事業

学園創立100周年に向けて寄附募集についてのチラシを作成し、広く周知に努めた。なお、寄附募集についてのリーフレットは、同封する学園発行の新聞の一部が電子化されたため、その電子化を検討することとした。また、同事業の一環として、活用の検討を進めている旧鉄道聯隊材料廠煉瓦棟については、令和7年10月14日(火)の鉄道記念日に見学会を開催した。

(4) 私立学校法の改正の対応

私立学校法の一部改正（令和 7 年 4 月）を踏まえて改訂した寄附行為に基づき、適正な学園運営に努めた。

(5) 大学・短期大学・附属高校の三者連結推進

「千葉経済学園三者連携会議」を軸に、教育、入試、進路指導、広報等にわたって、三者連携から三者連結へと強固な関係性の構築を推進した。また、学園全体の教職員懇親会を 1 月に開催し、個々の教職員においても大学・短大・高校の三者連携から「三者連結」への意識の醸成を図り、より強固な「三者連結」に向けた取り組みを行った。

(6) 資格取得奨励

各種検定・資格の取得を奨励し、高度資格の取得者には奨励金を授与した。

（延べ人数で、大学 60 名、短期大学 30 名、高校 72 名）

(7) 広報活動の充実・強化

高校・短期大学・大学進学適齢人口の減少を踏まえ、学園の魅力や強みを強化して発信し、認知度の向上を図るため、以下の通り様々な広報手段を用いて広報活動を実施した。オープンキャンパス参加者には、教職員が一体となり学園の魅力や強みを伝えることに加え、来訪後も継続的に情報発信することにより、志願・入学へとつながるよう努めた。

○附属高校に対しては、「進路ガイダンス」等での教職員による丁寧な情報提供、附属高校卒業生から大学・短期大学を経て活躍する先輩の姿を紹介するポスター掲示、ミニキャンパスツアーの実施、短大の授業公開、附属高校生対象の入試説明会の実施などあらゆる機会を通じて大学・短期大学に関する情報を発信するとともに、第 3 学年教員等を対象とする意見交換会を開催し、信頼関係の構築に努めた。

○県外高校の生徒に対しては、進路情報サイトや本学ホームページを通して情報提供を行うとともに、特に茨城県南部や東京都東部の高校を中心に「進路ガイダンス」において、本学の魅力を高校生に伝え、オープンキャンパスへの参加誘導を図った。

○附属高校の広報活動

普通科・商業科・情報処理科の 3 学科を設置する「懐の深い高校」であることをホームページや KEIZAI ニュースで周知を行った。部活動や資格取得等で頑張る生徒を心から応援する学校であることを広く知らしめ、向学心のある生徒の入学に努めた。

(8) 地域社会との連携

① 「ちば産学官連携プラットフォーム」は協定締結 8 年目となり、本学が副会長校

(再任、任期 2 年) として次期中長期計画 (2026 年度～2030 年度) の策定作業に参画することとなった。また、本学(大学・短大)が幹事校を務める「短期大学連携ワーキンググループ」では、9 月に千葉市と市内保育系 4 大学・短大と協働で「公立保育士就職説明会」を実施した。その他、「教育活動連携事業部会」の食糧支援事業として、昨年度に引き続き、本学が担当校として、他大学・短大・産業界等と調整を行いながら、学生への支援を実施するなど、産学官が連携して学生募集・教育活動・就職支援・生涯学習・地域支援等の推進を図った。

- ② 「千葉都市モノレール株式会社」との相互連携協定は締結 8 年目、「千葉市稲毛区」「公益財団法人千葉県文化振興財団」との相互連携協定も締結 7 年目となった。それぞれの特徴や資源を活用しながら情報発信、教育・人材育成など、各分野での連携を図った。
- ③ 株式会社千葉ジェッツふなばしとの「オフィシャルサプライヤー契約」は契約締結から 7 シーズン目となった。ユース選手の練習に短期大学部体育館・総合体育館を提供するとともに、ユース選手の奨励奨学金制度をサプライ内容とする契約を更新し、チーム応援呼称権、ホームゲーム会場内でのサイネージ広告や U18・U15 ユニフォームシャツ (背中) ヘロゴを掲載する権利・役務の提供を受けた。
- ④ 「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」は、令和 3 年の設立時会員として、引き続きアントレプレナーシップ教育に関する産学官の連携を図った。
- ⑤ 附属高校生徒会が、銚子電鉄が販売するスナック菓子「まずい棒」の新フレーバーをプロデュースし、新聞、銚子電鉄の YouTube チャンネルなどのメディアで、その取り組みが紹介された。

(9) ボランティア活動の推進

学生・生徒たちが、「青葉の森リレーマラソン」、「献血活動 (千葉県赤十字血液センターへの協力)」、「短期大学部 (こども造形教室) への協力」、「シャルムの夕べ (夜灯)」、「附属高等学校文化祭における羊羹販売及び写真展」、「千葉公園の清掃」、「千葉シティトライアスロン」、「房総双葉学園によるソフトボール大会」、「千葉公園での壁画制作プロジェクト」に参加し、教職員も同行した。また、活動の成果については、大学・短期大学・高校のホームページの報告記事の更新を行うとともに、活動時には学園名を記したビブスを着用して、ボランティアに積極的な学園であることの PR に努めた。令和 5 年度に商品化させた「なごみの米屋」とのコラボ羊羹は、上記のボランティア活動 (2 回) において販売し、商品開発の目的である地域に笑顔を届けることを実践した。

(10) FD・SD の推進

FD (教員の教育力向上のための研修) として、大学では「FD 推進計画」を、短大は「今年度の FD 活動について」を各教授会にて提示し、組織的・体系的な研修の充実を

図った。また、大学・短大とも学修(学習)成果を測定するため各種アンケートを行い、集計後は経年比較を含めた分析・評価を行った。

SD（教職員の職能力向上のための研修）として、「SD 推進計画」を踏まえ、法人本部職員及び大学・短大の職員を対象とした「令和 7 年度職員研修計画」を策定し、職員の専門性と資質の向上を図るための研修等を各部門別に行った。令和 7 年度の全体の SD 研修は、6 月と 7 月に「教職員が知っておくべきハラスメントの知識」を企画し、大学・短大の教職員全員が参加した。また、法人事務局・大短事務局職員研修会は、大学の鈴木 敦准教授を講師に迎え、「働く人のメンタルヘルス」というテーマで 8 月に実施した。

（１１）事務職員の勤務体制の改善

時間外勤務や休日勤務の事前申請を徹底し、必要最低限での時間外勤務となるように努めた。

（１２）働き方改革関連法への対応

育児・介護休業法の改正を踏まえて、仕事と育児・介護を両立できるよう、規程の見直しを行った。

（１３）防災備蓄の整備

引き続き、学生・生徒・教職員用に非常用食料や保温シート等の防災用品を計画的に備蓄し、災害時に備えた。

〔千葉経済大学附属高等学校〕

（１）教育課程の実施状況の評価及び教育活動の質の向上

新学習指導要領の提唱する「主体的・対話的で深い学び」の実現に努め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現に努めた。また、新教育課程の施行から 4 年目を迎えるにあたり、これまでの実施状況を踏まえて今年度より総合的な探究の時間の一部プログラムを再編した。3 年次においては、卒業後のキャリア意識の向上を重視し、進路指導部との組織的連携のもとに新たな探究学習プログラムを構築した。

（２）タブレットを活用した授業実践

全学年へ導入されているタブレットの授業における調べ学習やまとめ学習等での積極的な活用を通じて主体的な学びを促進する。ICT 推進委員会が主に使用するアプリケーションである Teams や Classi の研修を継続した。

(3) 観点別評価を活かした学習計画とキャリアパスポートによる指導の充実

新学習指導要領が提示する観点別評価を適切に行い、3 観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」）の学習評価に取り組んだ。また生徒には、学内外で行う活動を「キャリアパスポート」に記録させることで自らの成長を確認、目標修正などの改善を支援した。

(4) 普通科の教育充実

特進コースでは、理系を志望する生徒の教科指導を充実させ、多様化する大学入試に対応した進学指導に努めた。特進プロジェクトチームによる各種講座補習により学力の向上・定着を図った。また、スタディサプリ等の ICT 活用を推進した。その結果、今年度卒業の特進コース 3 年生は、私立大学では、立教大学・法政大学・中央大学などへの合格を果たすことができた。

文理一般コースでは、段階的なコース選択(文理選択)や科目選択を導入し、生徒の多様な進路希望について柔軟に対応した。さらに、将来を切り拓く確かな学力の定着を図るべく、進学に関する各種講座として教科の講座はもとより小論文講座も開講し、総合型選抜をはじめとする大学入試の対策を実施した。その結果、千葉県保健医療大学・中央大学・東邦大学・学習院大学など、公立大学や難関私立大学および中堅私立大学の合格などの進学実績をあげた。

文Ⅱコースでは、多種の体育系部活動に所属する生徒が日々の練習に励み、後掲のような活躍をし、全校生徒の気持ちを高揚させた。

(5) 商業科の教育充実

ビジネス関係科目の教育充実を図り、高度資格に挑戦する支援と実践的な授業の展開に努めた。日本商工会議所 簿記 2 級、全商協会主催検定 1 級 3 種目合格など高度資格取得の実績をあげた。

「課題研究」においては、開発した商品・サービスを文化祭で展開した。今年度は、生徒が企画し、パッケージ等を考えたクラムチャウダー味のランチパックを山崎製パン株式会社の協力のもと、販売した。そのほか、地元の企業と協力し、イベントの企画・運営を行うなど、多方面で活動を行った。1 年生を対象にした講演会では株式会社 ZOZO の「楽しく働く」を実施し、キャリアについて深く考える機会を早期に設けた。進路においても、課題研究の取り組みをアピールするなどにより、駒澤大学、国学院大学等へ進学を果たした。

(6) 情報処理科の教育充実

情報関係の探究活動を支援する教育と高度資格に挑戦する支援を充実した。経済産業省主催基本情報技術者試験 4 名、情報セキュリティマネジメント試験 6 名、IT パス

ポート試験 30 名、全商協会主催検定 1 級 5 種目以上合格 3 名など高度資格取得の実績をあげた。

「課題研究」では、校舎の 3D モデルの作成など、生徒の探究心を伸ばす授業展開を行った。そのほか、動画編集、ホームページ作成など幅広い分野の活動に取り組み、卒業発表会にて在校生や保護者の方を招待し、3 年間の学びを発表する場を設けた。さらに進路指導の充実により、専修大学、駒澤大学、千葉工業大学等への合格などの進学実績を上げた。

(7) 部活動の意義を踏まえた振興の充実

部活動については、「部活動の基本方針」及び「活動方針」に従って適正な部活動運営がなされた。部活動については、各省庁のガイドラインに則り、教員の働き方改革の動向も踏まえた活動を展開しつつ、生徒のもつ資質や能力を伸ばし、各種大会・コンクール・発表会での活躍を目指した。その結果、運動部においてはソフトボール、ボクシング、バスケットボール、卓球、柔道、自転車競技、弓道、水泳（同好会）の各部が関東大会・全国大会に出場した。特に、自転車競技部と柔道部は全国優勝、ソフトボール部においては全国準優勝という輝かしい成果を上げた。文化部についても華道部が関東地区大会、珠算部・美術部が全国大会へ出場・出品した。

【運動部の功績（令和 7 年度）】

関東大会出場：女子バスケットボール、卓球(男女)、柔道(男女)、自転車競技、ボクシング、水泳、体操

全国大会出場：女子バスケットボール、女子ソフトボール、柔道(男)、卓球(男女)、自転車競技、ボクシング

【文化部の功績（令和 7 年度）】

関東大会出場：華道部、全国大会出場：珠算部

(8) 教員研修の充実

年間 7 回の ICT 推進委員会を実施し、各学年からの活用状況、新しい取り組みを共有し、ICT 機器活用を推進した。また、外部講師によるハラスメント防止に関する研修会及び校内委員会による ICT 教育に向けた研修会も複数回実施した。

(9) 生徒募集と広報活動

オープンキャンパス・入試説明会は予約制とし、参加人数の上限を定めて行った。15 歳人口減少のなかで、ホームページや KEIZAI ニュースを随時更新・発行し、全教職員の協力によるオープンキャンパス、入試説明会の開催や入試広報委員による学校見学会、個別相談の実施、各種進学フェアへの参加及び中学校訪問等により、入学者については、今年度は前年比 50 名減の 586 名にとどまり、定員確保を維持した。

(10) いじめ及び体罰の防止による健全な教育活動の展開

「いじめ及び体罰防止委員会」を活かし、教員相互の協力のもと早期発見に努めた結果、深刻な問題へと発展する事例は発生しなかった。

(11) 施設設備の改修

①生徒の教育活動上の必要性及び施設利用状況を踏まえ、5号館1階旧食堂を家庭科室に改修する計画を、4号館で活動しているストリートダンス部の練習場所として改修する計画に変更した。

②5号館トイレ設備の不具合について、部品交換等の改修工事を行った。

③受電設備の法定点検の結果、第一変電所から2号館変電設備間の高圧ケーブルについて、電流が急激に変動するキック現象が見られるとの指摘を受けて、同ケーブルの更新の検討を行った。

以上

【2】令和6年度決算について

議長の指名により、浅井 優規 法人事務局会計課長から、令和7年度決算について別添2「令和7年度 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録」及び「内訳表」に基づき、事業活動収支決算額、資金収支決算額、について説明がなされた。続いて、議長から本決算に関する意見を求めたところ、青柳 俊一 監事から、青柳 俊一、植松 省自 両監事より提出された監査報告書及び新創監査法人より提出された独立監査人の監査報告書に基づき学園の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことが認められた旨報告がなされた。

【3】その他

議長の指名により、原田 浩二 高等学校副校長より附属高校の近況報告及び満足度調査結果についての説明があった。

満足度調査結果 全科学年＜R7年3月度＞

1年に2度、7月と3月に調査を行っております。満足度が70.5％と前回の調査と比べて0.2％上昇しています。今後も引き続き生徒達の学力向上に努めてまいります。

・意見

全国大会や関東大会に出場する部活がスポーツ・文科系問わず多くて大変素晴らしい。これからも頑張る生徒の活躍をホームページで積極的に広報してほしいとの意見があった。